

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2014年7月
第17号
(年4回発行)

お盆号

発行部数3千部

「今どきの終活」／丹羽義昭住職インタビュー
シリーズ浄土宗／「仏教と葬儀」
実践教室／お盆を迎える準備

- ・西願寺大施餓鬼会法要のご案内
- ・お盆会／合同新盆供養のご案内



丹羽住職と考える

今どきの終活

ここ数年、「終活」という言葉がブームとなり2012年には新語・流行語大賞のトップテンに選出されました。終活とは「人生の終わりのための活動」の略で人生の最期を迎えるにあたって、自分がどのように死を迎えたいか、自分が死んだらどんなお葬式をしてほしいか、どんなお墓に入りたいかなど元氣なうちに考え、準備することをいいます。



問 少し前までは、死に関することはタブー視されてあまりオープンに話されることは少なかったと思うのですが最近ではずいぶん様子が変わってきましたね。

住職 そうですね。就活にはじまり、婚活や朝活と続き、〇〇活という軽い言葉で終活が語られるようになってきたからじゃないでしょうか？ エンディングノートが広まってきてから終活という言葉も出てきたように思います。

問 なぜ今、終活がブームとなっていると思われますか？

住職 核家族化や少子高齢化などによって、「後を継ぐ人がいない」とか、「遺族に迷惑をかけたくない」という思いからだと思います。先日、成年後見人の方と相談しながらいろいろと決めていくという方とお会いしました。先のことを今のうちに考えて準備するということが安心につながることもあるのかもしれないですね。

問 元氣な老後が長くなり、死や人生を見つめ直す時間が増えたということでしょうか？

住職 そう思います。ただ、終活という言葉だけが先行してしまっ、て、お墓や葬儀のことだけを着々と決めていくことのようにとらえられている部分も多いような気がします。終活の話題でも、宗教的なところは抜かされて考えられているんじゃないかな。物質的なことだけでなく、精神面での終活ということが宗教だと思うのですが、こちらはなかなか二の足を踏まれてしまうようです。

問 確かに、終活イベントなどでは、遺影写真の撮影会があったり、棺桶に入ってみる納棺体験があったり、各種葬儀プランの中には、樹木葬の他に宇宙葬なんていうちょっと変わったものなども登場して話題を集めています。宗教色はあまり感じられませんね。ただ、終活をとおして死や人生をみつめなおすきっかけとなったと言う方もいるようです。

住職 エンディングノートなどは、自分の生い立ちなどを振り返り記入するものもあるそうですし、立ち止まって今まで歩んできた道を改めて思い返せるのでしょうか。それにノートは、それを書いておくことで残された家族の手引きにもなりますしいかもしれませんね。

問 最近では、お墓や葬儀などは、遺族に負担にならないように、葬儀をせずに散骨を…という方もいるようですが？

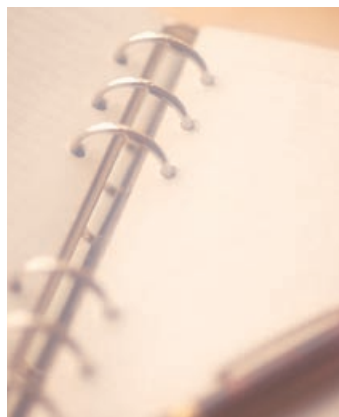
住職 そうですね。ただ、葬儀や法事は亡くなった故人のためだけでなく、

亡き人を縁にそこに集まった家族や縁者が、亡き人を偲びつつ仏法を聞くことに意味があります。盛大に執り行う必要はありませんが、質素でも葬儀をあげることが心の安らぎにもつながると思います。

問 自分は散骨でいいと言っている人でも、大切な人のお墓にはお参りしたいと思っている場合も多いと聞きますから、残される人の気持ちと自分の気持ち置き換えてみるとまた違った考えも浮かぶかもしれませんね。

最後に、仏教では死をどのようにとらえるのでしょうか？

住職 人は誰でも、必ずいつか死を迎



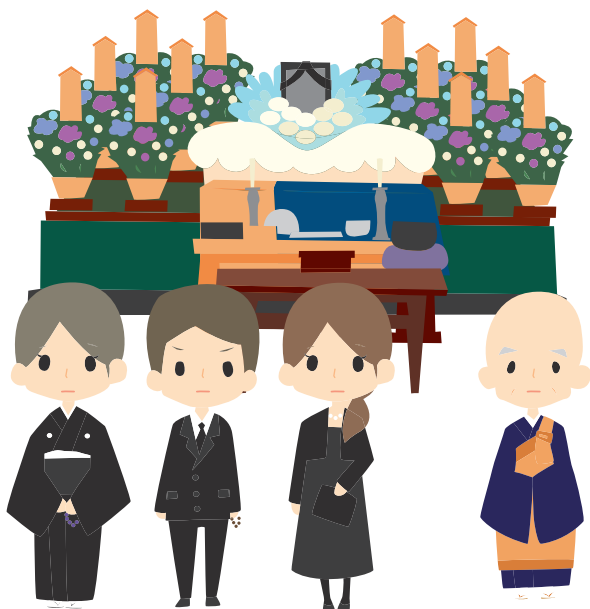
えるものです。そして、死に對しての不安を抱えて生きているものではないでしょうか？ その不安を取り除くためにあるのが宗教だと考えます。ですから、仏教は死ということの前の生きている今をより良くするためのものだと考えます。終活をきつかけに、死について、生について考えたとき、皆さんにお釈迦さまや阿弥陀さまのお話しを通して気づいて頂けたらいいなと思います。

問 しつかりと今を生きるということが本当の意味での終活になるのかもしれませんがね。本日は、ありがとうございます。



『仏教と葬儀』

日本で最初の葬儀は、現在わかっているものではなく、三世紀ころの「魏志倭人伝」に記されている葬儀の形式が最も古いものといわれています。



仏教が伝来される以前の日本の葬送は、土葬や風葬が多く、また死は穢れに満ちたものと考えられていました。

やがて仏教が渡来すると火葬がはじめられるようになります。

仏教において火葬のことを「荼毘に付す」といいますが、お釈迦様が亡くなられたとき、その遺体が荼毘に付されて以来、火葬が仏教徒の葬儀の方法になったといわれています。

「日本書紀」には、推古天皇の三十年（622）、聖徳太子が亡くなったとき、僧侶が呼ばれ読経したとあり、日本の葬儀の仏式らしい最初のものとして考えられますが、正式な意味での最初の仏式葬儀としては天平勝宝八年（756）聖武天皇崩御の際、初めて焼香などをし仏式で葬られたこととされています。

人生の最後の場となる葬儀。

浄土宗ではどのように考えるのでしょうか？

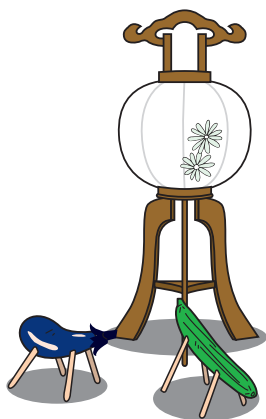
浄土宗では、亡くなった方は、この世から極楽浄土へ旅立っていくと考えます。葬儀の法要は、亡くなった方を極楽浄土へと導くための下炬（こいかり）引導（いんどう）が中心になっています。下炬とはもともと松明で火をつける火葬の事で、引導とは亡くなった方を浄土に導くためのものです。

阿弥陀仏の本願を信じ、亡き人との別れを惜しみ、冥福を祈る厳粛な儀式が浄土宗の葬儀なのです。

お盆の迎え方

お盆は先祖の霊を迎えて祀る仏教行事です。正式には盂蘭盆会といい、その時期は、地域によって異なりますが、一般に七月もしくは八月の十三日から十六日までとされ、十三日を迎え盆、十六日を送り盆といえます。

家庭では、精霊棚を整え仏壇や仏具の掃除をしてお盆を迎えます。



精霊棚の準備

精霊棚は、仏壇の前に飾り、位牌を安置しお供えする棚です。小机の上に真菰まこものゴザを敷き中央奥に先祖たちの位牌を安置し、位牌の前には供養膳を供え、花、なすの牛やキュウリの馬、

季節の野菜や果物などをお供えします。また、地方によっては水の子や閻あかみず伽水もいっしょにお供えします。

盆提灯

精霊棚の左右には、先祖への目印として盆提灯を飾ります。一般的には絵柄のついているものですが、亡くなった後、初めて迎えるお盆（新盆）では、白提灯を用います。白提灯は一度きりしか使用しないこともあってか最近ではこれを省略して絵柄の入った提灯のみを置く家庭も増えているようです。

迎え火、送り火

お盆の入りの日である十三日の夕方は迎え火、明けの十六日には送り火を炊く習わしがあります。迎え火は仏界から先祖を迎えるための道しるべとなり、送り火は帰りを照らすという意味で家の入口でかがらを焚きます。



お盆の風景

毎年、お盆の時期になると、町のそこそこで家から家へ棚経にまわる僧侶が忙しくバイクを走らせている姿を見かけ風物詩となっていました。最近ではその姿も少なくなり、なんだか寂しい感じがします。

7月または8月に行われる盂蘭盆会。浄土宗では先祖の恩に報いる行事として営まれます。

亡くなられた方があって忌明けの後初めて迎えるお盆を「新盆」または「初盆」といい特に丁寧にお勤めします。親戚や知人・友人を招いて、菩提寺の僧侶に法要をお願いします。

お盆のお勤めをお願いする際は、お寺への連絡を早めにした方がよいでしょう。



■お盆会/合同新盆供養のご案内

日時 平成26年8月3日（日）
10時～

場所 西願寺本堂

■西願寺大施餓鬼会法要のご案内

先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う法要であるお施餓鬼は、年に一度の大供養法要です。万障お繰り合わせのうえ、ご出席ご参詣いただき御仏前にご焼香供養ください。

日時 平成26年8月18日（月）
13時より余興（落語）
14時より法要

場所 西願寺本堂



当日は、
三遊亭春馬師匠の落語があります。
皆さまお誘い合わせのうえ
足をお運びください。

◆◆◆西願寺別時念佛会のご案内◆◆◆

こころの安らぎともなるお念佛をご一緒にお唱えしませんか？

日時／毎月25日 18時より

場所／西願寺本堂

■参加申込について

事前にご連絡をお願い致します。

当日でも大丈夫です。

お気軽にご参加ください。

※当日灯明料をご奉納願います。

■申込・お問合せ

西願寺

TEL. 048-925-1723



西願寺本堂内陣

●お施餓鬼

施餓鬼会は、「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」というお経に説かれた阿難尊者の話しに由来しています。

施餓鬼棚に「三界万霊牌」や初盆の戒名を記した位牌を置き、浄水や食物を供え、五如来の「施餓鬼幡」を立てて法要を営むのが習わしです。

暮らしの中の

仏教語 「流通」 [りゅうつう]

貨幣や商品、情報などが市場を往來することや、広く通用すること、広く行われることを流通（りゅうつう）と言いますが、もとは仏教で使われている言葉で「るつう」または「るづう」と読みます。私たちが普段使っている意味で用いられるようになったのはそう古くないことのようにです。聖徳太子の『勝鬘經義疏（しょうまんきょうぎしょ）』には、「如来、まさにこの經を流通せんと欲す」とあります。仏教の「流通」は、お釈迦さまの教えが全ての人々に広まり伝わっていくことを意味するのです。



掲 示 板

◆ 塔婆お焚き上げについて ◆

当園では、塔婆のお申込又は墓所に立てる際に、塔婆お焚き上げ料として1本につき1,000円を頂いておりますのでご了承ください。

※お寺様ご同行の方（霊園以外で塔婆をお申込の方）は墓前に塔婆をあげる際に事務所に申し出ください。



彩の都メモリアルパーク
管理事務所

TEL.

048-921-4194

毎週水曜日は管理事務所の定休日とさせていただきます。事務手続き、電話問合せなどの業務はおこなえません。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承ください。

尚 墓所へのお参りは通常どおり開門しておりますので自由にいらしてください。



西願寺参道の松



浄土宗は毎月25日（法然上人のご命日）を「世界平和念仏の日」と定めています。平和な世の中、人類の幸せを願い、正午にお念仏をとねましましょう。

■ お便り募集 ■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。紙面でご紹介させて頂きたいと思っております。また、「さんが」についてのご感想もお待ちしております。

◆ イオ株式会社 ◆

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03 (3295) 1300
Mail: info@b-co.net

■ 次号予告 ■

次号は平成二十六年九月発行予定の「秋のお彼岸号」です。

◆◆ 草加南無の会 講演会のご案内 ◆◆

特定の宗派にとらわれることなく、仏教の基本的な教えを一般の方に学んでもらうために草加南無の会が主催する講演会です。毎回ちがったテーマで開かれる講演は、どなたでも気軽に参加できる内容となっております。

日 時 毎月第3火曜
19:30~21:00
場 所 草加駅東口 アコス会議室AB
(イトーヨーカドー店内エレベータ6F)

参加費 1,000円

お問合せ

草加南無の会事務局

西願寺

TEL. 048-925-1741





◆編集後記◆

梅雨が明けるといよいよ夏ですね。私の場合、夏の強い日差しには日傘が欠かせません。ところで、お寺の本堂内陣の天井に吊るされている天蓋も、もとはインドでの王侯貴族などに侍者が差し掛けた日傘からきたものだそうです。尊い物を守るという意味で仏教では帝釈天が常に天蓋を差し掛けてお釈迦さまに從ったという伝説があり、そこから仏像の莊嚴として用いられるようになったのだとか…。仏具の一つ一つにも物語があるので

すね。
さて、夏と言えば西願寺では8月の行事にお盆と施餓鬼会があります。本堂には施餓鬼棚が設けられ大勢の僧侶による読経や散華は普段と違う趣を感じることができるのではないのでしょうか？
また、西願寺大施餓鬼会法要に参加の際には、莊嚴の仏具にも注目してみてくださいね。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三四〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんか」編集部